

名古屋国税局長賞

未来をつくる税

学校法人津田学園津田学園中学校
3年 小原 英隆

私たちの生活を支えている「税」は、道路や学校、病院、警察など社会の基盤を作る大切なお金です。税金があるおかげで、私たちは安心して学び、暮らすことができます。しかし、その一方で、経済的な事情で学びや挑戦の機会を十分に得られない子どもたちも少なくありません。私は「未来応援税」という新しい税があつたらいいなと考えました。

未来応援税とは、経済的に苦しい家庭の子どもたちが安心して勉強や部活動に取り組めるよう支援する税です。具体的には、奨学金や学用品の支給、遠征費や習い事の費用の補助などに使われます。日本では教育の機会均等が法律で保障されていますが、実際には家庭の経済力によって挑戦できる範囲が全く違ってきます。これは「教育格差」と呼ばれ、将来の社会の不平等につながる大きな問題です。

私自身、母子家庭で育っており、勉強や習い事でお金がかかるたび、申し訳なく思ってしまいます。もし未来応援税があれば、私と同じように経済的に苦しい家庭の子どもたちにもチャンスを提供できると思います。

さらに、この税は長期的には社会全体の利益にもつながります。教育や経験の機会を十分に得られた子どもたちは、将来、より高い能力と社会貢献の意識を持った大人になります。つまり、今の税が未来の社会の力を育てる「投資」になるのです。税金は単なるお金の徴収ではなく、社会をよりよくするための道具であることを、この未来応援税は教えてくれます。

税金というと「大人が払うもの」というイメージがありますが、私たち中学生も将来は税を納める立場になります。そのお金が、教育や挑戦の機会を平等にするために使われると知れば、税に対する意識も変わると思います。未来応援税は、子どもたちの夢を応援し社会全体を豊かにする仕組みです。

私は将来、大人になり税を納めるとき、このような使い方がされていることを意識し、税が持つ本当の意味を理解したいです。未来応援税はまだ想像の中の仕組みですが、社会全体で子どもたちを支えるという考えは、今から大切にしていきたいと思います。

最後に、税について勉強して思ったことは、もっと早く税のことを知っておきたかったということです。小学校に入ったらすぐ、簡単な税のしくみから勉強するようにすれば、子どもたちが経済をより身近に感じられ、社会の仕組みも今よりもっと良くなり、豊かな社会になっていくと思います。